

星	空	の		2025	1 January
 www.am12.jp	レ	シ	ピ	VOL.	371

特集 2025年の天文現象

2025年は軌道星隊シゴセンジャー 20周年!



2024年11月シゴセンジャー秋場所にて

1月

- 1日 元日(明石の初日の出は 07:07)
- 3日 月と金星が並ぶ
- 4日 しぶんぎ座流星群が極大
- 4日 月と金星・土星が並ぶ
- 5日 小寒
- 10日 金星が東方最大離角
- 10日 月と木星が並ぶ
- 12日 火星が最接近する
- 14日 月と火星が並ぶ
- 16日 火星が衝
- 20日 大寒

2月

- 2日 月と金星が並ぶ
- 3日 立春
- 7日 月と木星が並ぶ
- 18日 雨水

3月

- 1日 月と水星が並ぶ
- 2日 月と金星が並ぶ
- 5日 啓蟄
- 5日 プレアデス星団食
- 6日 月と木星が並ぶ
- 8日 水星が東方最大離角
- 9日 月と火星が並ぶ
- 12日 土星が合
- 14日 北南米で皆既月食(東日本で月出帯食)
- 20日 春分
- 20日 海王星が合
- 23日 金星が内合
- 24日 土星環の消失

4月

- 3日 月と木星が並ぶ
- 4日 清明
- 5日 月と火星が並ぶ
- 20日 穀雨
- 22日 水星が西方最大離角
- 22日 こと座流星群が極大
- 25日 月と金星・土星が並ぶ(明け方)
- 30日 月と木星が並ぶ

5月

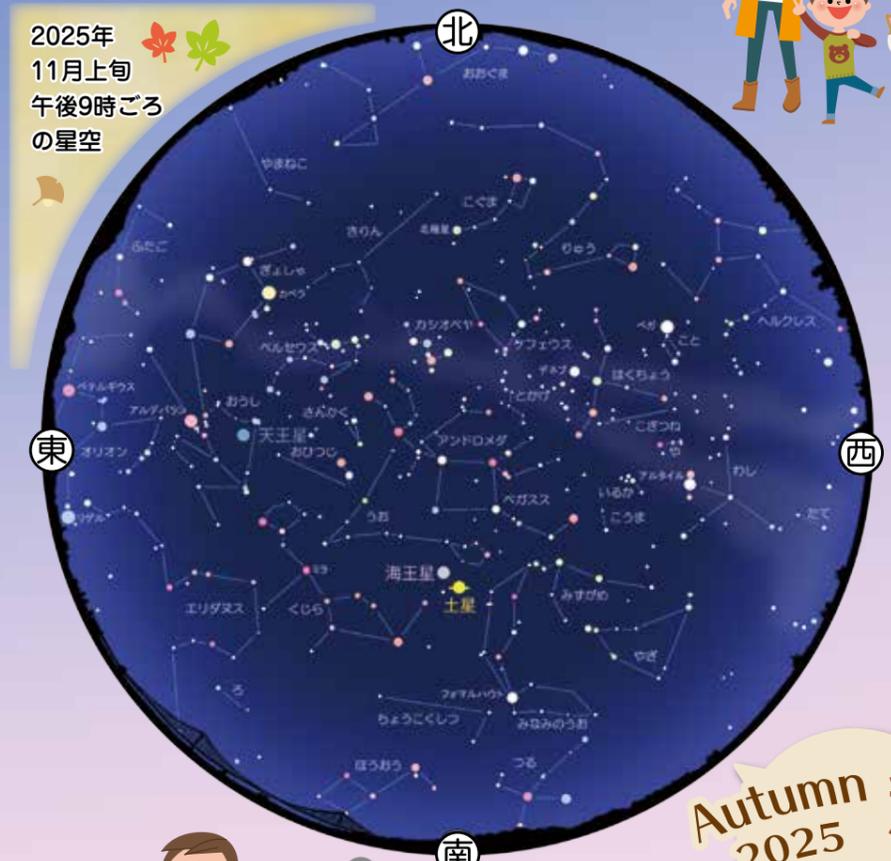
- 4日 月と火星が並ぶ
- 5日 立夏
- 6日 みずがめ座 η (エータ)流星群が極大
- 7日 土星環の消失
- 18日 天王星が合
- 21日 小満
- 23日 月と土星が並ぶ(明け方)
- 24日 月と金星が並ぶ(明け方)
- 28日 月と木星が並ぶ

6月

- 1日 金星が西方最大離角
- 1日 月と火星が並ぶ
- 5日 芒種
- 19日 月と土星が並ぶ(明け方)
- 21日 夏至
- 22日 月と金星が並ぶ(明け方)
- 25日 木星が合



2025年の天文現象 特集



7月

- 1日 月と火星が並ぶ
- 4日 水星が東方最大離角
- 7日 小暑
- 16日 月と土星が並ぶ
- 22日 大暑
- 22日 月と金星が並ぶ(明け方)
- 23日 月と木星が並ぶ
- 23日 月と火星が並ぶ
- 31日 みずがめ座 δ (デルタ)南流星群が極大

8月

- 7日 立秋
- 12日 金星と木星が並ぶ(明け方)
- 12日 月と土星が並ぶ
- 13日 ペルセウス座流星群が極大
- 16日 プレアデス星団食
- 19日 水星が西方最大離角
- 20日 月と水星・金星・木星が並ぶ(明け方)
- 21日 月と水星・金星・木星が並ぶ(明け方)
- 23日 処暑
- 29日 旧暦七夕

9月

- 7日 白露
- 8日 皆既月食(部分食の開始 1:26 皆既の開始 2:30 食の最大 3:11 食分 1.4 皆既の終了 3:53 部分食の終了 4:56)
- 8日 月と土星が並ぶ
- 17日 月と木星が並ぶ(明け方)
- 19日 月と金星が並ぶ(明け方)
- 21日 土星が衝
- 23日 秋分
- 23日 海王星が衝

10月

- 5日 月と土星が並ぶ
- 6日 中秋の名月
- 8日 寒露
- 9日 リゅう座(10月)流星群(ジャコビニ流星群)が極大
- 13日 月と木星が並ぶ
- 21日 オリオン座流星群が極大
- 23日 霜降
- 30日 水星が東方最大離角

11月

- 2日 おうし座南流星群が極大
- 2日 月と土星が並ぶ
- 5日 2025年最大の満月
- 6日 プレアデス星団食
- 7日 立冬
- 10日 月と木星が並ぶ
- 12日 おうし座北流星群が極大
- 18日 しし座流星群が極大
- 21日 天王星が衝
- 22日 小雪
- 29日 月と土星が並ぶ

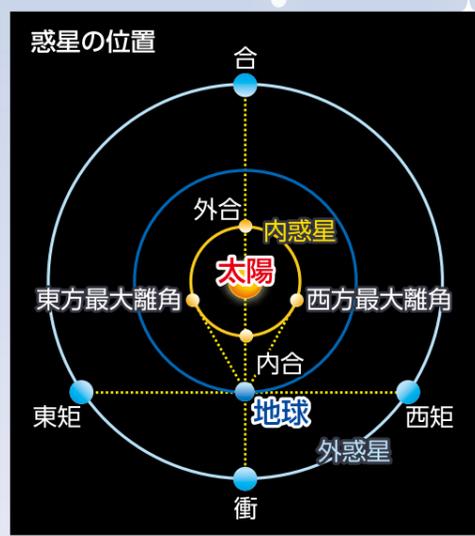
12月

- 7日 大雪
- 7日 月と木星が並ぶ
- 8日 水星が西方最大離角
- 14日 ふたご座流星群が極大
- 22日 冬至
- 27日 月と土星が並ぶ
- 31日 プレアデス星団食

天文みごろ カレンダー

2025年の夜空のみごろを表にしています。
表をもとに、夜空を観察してみましょう。

- ### 表の見方
- 月の暦
 - 5 月がこの状態になる日
 - 月の見え方
 - 望 この状態のよび方
 - 惑星 (水星・金星・火星・木星・土星・天王星・海王星)
 - 惑星の見え方は、太陽と惑星と地球の位置関係によって決まります。地球から見て太陽と同じ方向に惑星があるときを「合(ごう)」といい、合にある惑星は見えません。また、地球から見て太陽と反対側に惑星があるときを「衝(しょう)」といい、衝にある惑星は一晩中見えます。



- 衝 ……真夜中に南中、観測好機
 - ◆ 西距 ……日出時に南中。明け方の東空に見える
 - ◇ 東距 ……日入時に南中。夕方の西空に見える
 - 西方最大離角 ……明け方の東空に見える
 - 東方最大離角 ……夕方の西空に見える
 - ✕ 合・内合・外合 ……太陽の方向にあり観測できない
 - うお座 ……カレンダー上の星座名は、その時期に惑星が位置するところにある星座です。たとえば、金星は2月頃、うお座のあたりに見えます。
 - 流星群
 - ★ ……流星群極大日
 - ……流星時期
 - 日食・月食
 - ☉ ……天体がかくされる現象
- ※記号上の日付は、それぞれの現象がおこる日です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
月の暦	7 14 22 29 上弦 望 下弦 朔	5 12 21 28 上弦 望 下弦 朔	7 14 22 29 上弦 望 下弦 朔	5 13 21 28 上弦 望 下弦 朔	4 13 20 27 上弦 望 下弦 朔	3 11 19 25 上弦 望 下弦 朔	3 11 18 25 上弦 望 下弦 朔	1 9 16 23 31 上弦 望 下弦 朔 上弦	8 14 22 30 望 下弦 朔 上弦	7 14 21 30 望 下弦 朔 上弦	5 12 20 28 望 下弦 朔 上弦	5 12 20 28 望 下弦 朔 上弦	
水星		外合 9日	東方最大離角 8日 夕方西の空に見える	内合 25日	西方最大離角 22日 明け方東の空に見える	外合 30日	東方最大離角 4日 夕方西の空に見える	内合 1日	西方最大離角 19日 明け方東の空に見える	外合 13日	東方最大離角 30日 夕方西の空に見える	内合 20日	西方最大離角 8日 明け方東の空に見える
金星	東方最大離角 10日 宵の明星として夕方西の空に見える	うお座	内合 23日	うお座	西方最大離角 1日 明けの明星として明け方東の空に見える	うお座	おひつじ座	おうし座	オリオン座	ふたご座	かに座	しし座	おとめ座
火星	最接近 衝 12日 16日 一晩中見える	ふたご座	かに座	かに座	しし座	しし座	おとめ座	おとめ座	おとめ座	おとめ座	おとめ座	おとめ座	おとめ座
木星		東距 3日 夕方に見える	おうし座	合 25日	ふたご座	西距 17日 明け方に見える	ふたご座	ふたご座	ふたご座	ふたご座	ふたご座	ふたご座	ふたご座
土星	みずがめ座	合 12日	土星環の消失 24日	うお座	7日	西距 23日 明け方に見える	うお座	うお座	衝 21日 一晩中見える	みずがめ座	25日	東距 17日 夕方に見える	おとめ座
天王星	おひつじ座	東距 12日 夕方に見える	おうし座	合 18日	おうし座	西距 24日 明け方に見える	おうし座	おうし座	おうし座	おうし座	衝 21日	おうし座	おうし座
海王星	うお座	合 20日	うお座	うお座	西距 23日 明け方に見える	うお座	うお座	うお座	衝 23日	うお座	うお座	東距 21日 夕方に見える	うお座
流星群	極大 4日 しぶんぎ座流星群	極大 22日 こた座流星群	極大 13日 ペルセウス座流星群	極大 6日 みずがめ座流星群	極大 31日 みずがめ座流星群	極大 9日 りゅう座(10月)流星群	極大 2日 おうし座南流星群	極大 12日 おうし座北流星群	極大 21日 オリオン座流星群	極大 18日 しし座流星群	極大 14日 ふたご座流星群	極大 14日 ふたご座流星群	極大 14日 ふたご座流星群
その他	皆既月食 北南米 14日	部分日食 北太平洋、ヨーロッパ北部など 29日	皆既月食 部分日食 8日	皆既月食 部分日食 22日	皆既月食 部分日食 8日	皆既月食 部分日食 22日	皆既月食 部分日食 8日	皆既月食 部分日食 22日	皆既月食 部分日食 8日	皆既月食 部分日食 22日	皆既月食 部分日食 8日	皆既月食 部分日食 22日	皆既月食 部分日食 8日



「土星環の消失 3月24日、5月7日」

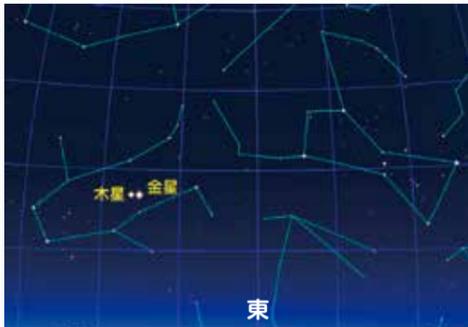
土星は環を持つ惑星です。土星は少し傾いた姿で、太陽の周りを約30年かけて回っています。地球から眺めていると、約15年に一度の間隔で、土星の環をちょうど真横から見るタイミングがやってきます。土星の輪はとても薄いので、真横から見ると消えてしまうように見えます。3月24日に、土星の環を真横から見るができます。ただ、この時期は土星が太陽とほぼ同時に昇ってくるので、観測の条件はよくありません。

また、太陽からの光が真横から当たり、土星の環が暗くなるために見えなくなることもあります。こちらは5月7日に起こります。この頃、土星は夜明け前の東の空に見えます。3月に比べて、観測の条件は良くなっています。

「金星と木星の接近 8月12日」

金星(-4.0等)と木星(-1.9等)が8月12日の明け方に最も接近します。金星と木星はどちらもとても明るく見える惑星です。この2つの惑星が並ぶことで、より目を引く光景となるでしょう。

それぞれの周期で太陽の周りを回る惑星たちは、その年によってみごろの時期が違います。4~5ページにはそれぞれの惑星たちが見える時期と、2~3ページには月と惑星が並ぶ日を掲載しています。



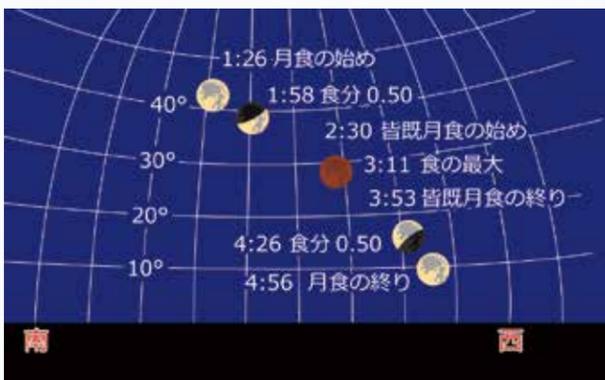
金星と木星 ©Stella Navigator/ アストローツ



皆既月食 9月8日

月食は、太陽が作る地球の影に月が入る現象です。その中でも、月全体が地球の影に入ること皆既月食といいます。皆既月食では、月が地球の影に入っても完全な真っ黒にはならず、太陽の光のうち、赤色の光だけが月に届くために赤っぽく見えます。月の色の変化にも注目です。

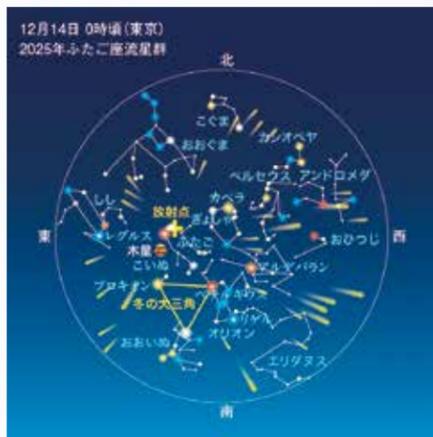
9月8日の皆既月食は、真夜中から明け方にかけて長い時間楽しめます。全国で楽しめる天文現象です。日本で見られる皆既月食としては、2022年以来3年ぶりです。



流星群

流星群は、毎年決まった頃にたくさんの流れ星が見られる天文現象です。流星群のもとになっているのは、彗星などが宇宙にまき散らしたチリです。チリが地球の大気につくことで、明るく輝く流れ星になって見えます。毎年多くの流星が出現する三大流星群のうち、8月のペルセウス座流星群は21時頃に月が昇ってくるので、条件はあまりよくありません。1月4日のしぶんぎ座流星群は月明かりの影響がほぼ無く、条件が良くなっています。放射点が昇ってくる明け方にたくさんの流れ星が見えそうです。12月14日のふたご座流星群は、2時頃に月が昇ってくるまではたくさんの流れ星が見つかるでしょう。

流星群は、放射点を中心に広がるように流星が現れます。しかし、空のどこに現れるかはわかりません。なるべく広く空を見渡せる場所で、気長にのんびりと流星を探すのがいいでしょう。



©天体観測手帳 2025



「すばる」ってどんな星？

冬の夜空を見上げてみると、おし座の肩の辺りに、星が、6つか7つこちゃこちゃこちゃと集まっているところが見つかるぞ。「すばる」という、青白い輝きがとってもきれいな星たちなんだ。



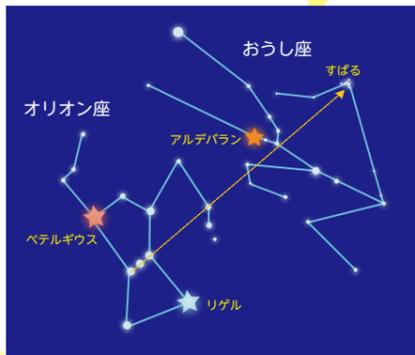
Q どうして、星がたくさん集まっているの？

A 星にも一星があって、生まれたばかりの星や年をとった星もあるんだ。星は、「星雲」というガスやチリの集まりから生まれる。すばるは、同じ星雲から生まれたきょうだいの星たちで、若い星の集まりなんだ。すばるのように、たくさんの星が集まった天体を「星団」というぞ。



すばるは、オリオン座の三ツ星を結んで、伸ばした先にみつかると。夜空で探してみよう！

シゴセンジャーレッド



Q 「すばる」って名前にはどんな意味があるの？

A 「ひとつに集まる」という意味の「統(す)べる」からきた名前なんだ。すばるには、他にもいろんな名前がある。ギリシャ神話に登場する、プレアデスの七人姉妹の名前がついた「プレアデス星団」というものもあるぞ。他にもいろんなものに見立てられてきたんだ。



こやぎ



ひなばこ



ぶどうのふさ



はごいた



インドネシアでは、「ビントンプルプル」ってよばれているぞ。「星がたくさん」という意味なんだ。

シゴセンジャーブルー

すばるの輝きは…… すっぱ(ら)しい！



ブラック星博士



特別展「プラネタリウム博覧会 PLANETARIUM EXPO」

7月20日(土)～9月8日(日)

2階・3階展示室では、プラネタリウムの歴史とともに、プラネタリウム惑星投影機の実物や、学校に設置された小型プラネタリウム、星や惑星の運行などを表現した天文時計、ドイツに留学してプラネタリウム施設をご覧になった松井さん・ウクライナでプラネタリウム解説に従事されていたオレナさんによる現地のプラネタリウム施設の紹介などを展示しました。また、14階展望室では、当館のプラネタリウムイベントでもポスター等を手掛けている八王子さんによるプラネタリウムに関連するイラストやグッズ、明石の老舗洋菓子店くるみやさんの「おたより」シリーズの箱の意匠から「星空と天文学館」「プラネタリウム」の原画などを展示し、さまざまなプラネタリウムに想いを馳せていただきました。



高校生によるプラネタリウム投影

8月24日(土)・25日(日)

県下の高校生がプラネタリウム投影について学び、一般の来館者に四季の星空を案内する特別投影が実施されました。これは、県教育委員会と県内のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校が実施主体となる「兵庫『咲いてく』プログラム」のひとつで、今年は5校から約10名の生徒が参加しました。

高校生たちはプラネタリウムを見学し、解説のポイントなどの講習を受けた後、それぞれ担当の季節についての解説を自分で考えました。本番前は緊張した面持ちでしたが、星空の下でそれぞれ楽しく堂々と解説し、投影後には大きな拍手が起こりました。



お月見ナイトミュージアム

9月14日(土)

坂井真一郎さん(JAXA宇宙科学研究所 宇宙機応用工学研究系教授、SLIMプロジェクトマネージャー)と的川泰宣さん(JAXA名誉教授)のお二人の講演会を開催しました。坂井さんには、小型月着陸実証機SLIMが成し遂げた、降りたい場所に降りるための技術「ピンポイント着陸」について詳しくお話ししていただきました。オンラインで出演していただいた的川さんには、幼少期の思い出や日本や世界の宇宙開発の歴史、月周回衛星「かぐや」についてお話しいただきました。講演会後には、天体望遠鏡での観月会をお楽しみいただきました。



お月見[9/16敬老お月見天体観望会][9/17明石城観月会]

9月16日(月・祝)・17日(火)

2024年の中秋の名月は9月17日でした。その前日(16日)が敬老の日ということで、65歳以上の方を対象とした「敬老お月見天体観望会」を開催しました。プラネタリウムでの月のお話の後、同行されたご家族とともに、16階観測室の40cm反射望遠鏡や4階時計広場に設置した小型望遠鏡で、月や土星を楽しんでいただきました。

17日には、明石公園で、恒例となった明石城観月会が開催されました。武蔵の庭園での朗読会や音楽演奏会と天体望遠鏡による観月会を楽しむイベントです。東芝生広場には、天文科学館から持参した望遠鏡5台が並びました。天候にも恵まれ、約300人の来場者は、天文科学館ボランティア(天ボラさん)の案内で、東の空に昇る中秋の名月を楽しみました。



4階時計広場での観月の様子 明石城の櫓を背景に観月会

(広告)

「星空のレシピ」に広告を掲載希望の業者の方は、明石市立天文科学館までご連絡ください。※内容によっては、掲載できない場合もあります。

2024年度 明石市立天文科学館



星の友の会 会員募集!

※詳しくは、HPなどをご覧ください。

年会費

個人会員：2,000円 ※小学4年生以上(10/1以降の入会は1,000円)
家族会員：3,000円 ※同居している家族(10/1以降の入会は1,500円)

特典

- ★年間の星の友の会行事への参加回数に応じてお楽しみプレゼント(4回・8回/例会・友の会天体観望会・野外天体観望会など)
- ★例会の開催(例会参加時の入館料は無料)
- ★野外天体観望会・施設見学会等の開催(別途費用が必要)
- ★天文科学館の天体観望会の参加費無料
- ★星の友の会天体観望会も開催
- ★友の会会報「135°の星空」の発行・配布
- ★館広報誌「星空のレシピ」の配布、イベント等も随時お知らせ
- ★天文科学館ボランティア『天ボラ』に参加できます

夏休み児童生徒作品展

9月14日(土)～10月14日(月・祝)

明石市内の児童、生徒の理科に対する関心を深め、科学的な探求心の育成を図ることを目的として開催されている同作品展、今年度は小学生の部129点、中学生の部64点の作品を展示しました。

小学生の部では「ムクドリのみみつ」や「小学校の測量」「能登半島地震について調べたこと」、中学生の部では「湧き水の成分と不純物の関係性」「ミカドミンミンの研究」「ガゼインプラスチックの作成と海水と腐葉土で分解するまで」など、身近な事柄や興味を持った事柄を調査した作品が並びました。作品を見た方からは「小学生とは思えない」「さすが中学生はしっかり調査している」「調べる観点が素晴らしい」など作品に対し感心する声が多く聞かれました。



夕焼けパンダ見てみ隊

10月12日(土)

夕焼けパンダとは、沈んでいく太陽と通信用アンテナが重なって、まるでパンダのように見えるものです。天文科学館から、年に2回だけ見ることができます。

この夕焼けパンダを観察する「夕焼けパンダ見てみ隊」の隊員が募集され、470名の中から抽選で選ばれた20名の隊員が天文科学館の14階に集まりました。夕焼けパンダは西の低空が晴れていなければ見ることができません。なかなか出会えない光景ですが、今回は完全なパンダが出現し、歓声が上がりました。

また、夕焼けパンダの様子はYouTubeでライブ配信され、全国の方と一緒に見ることができました。配信では夕日が沈んだ後、西空に見え始めた紫金山・アトラス彗星も観測しています。天文科学館のYouTubeチャンネルにアーカイブがありますので、ぜひご覧ください。



「プラネタリウム100周年」×「すばる望遠鏡25周年」記念 全国一斉オンライン講演会

10月19日(土)

プラネタリウム100周年とすばる望遠鏡25周年を記念したコラボイベント「全国一斉オンライン講演会」が全国25館の科学館等とハワイ島にある国立天文台ハワイ観測所とをオンラインで繋いで開催されました。マウナケアの星空ライブカメラ映像では、マウナケア山頂の星空の中に長い尾を引く紫金山・アトラス彗星の美しい姿が映し出されました。

宮崎聡 ハワイ観測所長によるライブ講演「すばる望遠鏡のこれから」では、すばる望遠鏡の貴重なファーストライトの画像や最新鋭の機器の紹介、これからの研究課題などのお話がありました。参加施設からの質疑応答で、天文科学館では小学4年生の児童から「すばる望遠鏡で“月”を見たら望遠鏡が焼けてしまわないのですか?」という鋭い質問が。この質問には宮崎所長から「大変良い質問ですね。実は怖くて誰も月を見たことがありません。」との回答がありました。参加された103名の方も、美しい映像と貴重なお話を楽しんでいただきました。



天文科学館のハロウィンイベント

10月27日(日)

天文科学館では、ハロウィンイベントを開催しました。お昼間には、特定の時間になるとハロウィン仕様に飾りつけられた館内にBGMが流れはじめ、仮装した職員が出没しました。「ハッピーハロウィン!」の合言葉を言うとスタンプがもらえます。3つ集めた方には、オリジナルグッズをプレゼントしました。ナイトミュージアムのプラネタリウム特別投影では、コスモプラネタリウム渋谷の永田解説員がオンラインで登場。秋の星空を紹介していただきました。めいっばい仮装した参加者の皆様には、シゴセンジャー達と一緒に記念撮影をしたり、いつもと違った雰囲気のアストロ科学館を楽しんでいただきました。



館長コラム

ふりかえると、2024年は天文現象の「当たり年」だったと思います。特に紫金山・アトラス彗星は見事でした。紫金山・アトラス彗星は太陽からかなり遠いところからチリの尾が発達し、大彗星の予感がありました。ところが明るくなるペースが徐々に停滞し、6月ごろには「太陽に接近する9月に崩壊するかも」という予測も出てきました。彗星は明るさの予測が難しい天体です。「大彗星になる」の予測が外れた例も多く、今回もそのパターンかと悲観するムードもありました。私もずいぶん気になって、9月末から10月初旬に、毎朝3時に起床して彗星観測しました。この時期の彗星は日本からとても見づらい位置でしたが、夜明けの超低空の空に見つけたときは嬉しくて声が出ました。しっかりと光るようすに、崩壊の気配はありませんでした。期待どおり紫金山・アトラス彗星は10月中旬に見事な姿を見せてくれました。2025年の天文現象も楽しみです。



2024年10月6日5:14撮影

プラネタリウム一般投影 解説員が、その日の夜に見える星空と、期間ごとのテーマにそったお話をわかりやすく紹介します。

2025年の天文現象

1月11日(土)~1月31日(金)

2025年とはどのような天文現象が起こるのでしょうか。惑星の見ごろや流星群の条件など、注目の天文現象についてお話しします。

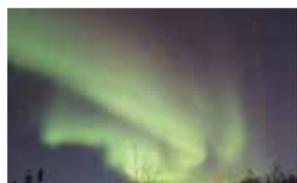


真横から見た土星 (ハッブル宇宙望遠鏡撮影) Credit:Erich Karkoschka (University of Arizona Lunar & Planetary Lab)and NASA/ESA

オーロラ~天空を舞う神秘的な光~

2月1日(土)~2月28日(金)

オーロラは、空を覆うカーテンのように輝き、幻想的な美しさで人々を魅了してくれます。オーロラは、太陽からやってくる太陽風によって起こる現象です。さまざまな色や形でゆらめくオーロラの魅力を紹介します。



明石原人が見た星空

3月1日(土)~3月30日(日)

星座などの星の並びは、星座を形づくる星たちの「固有運動」により、何万年という年月とともに変わっていきます。明石原人と呼ばれる人たちは、どんな星空を見上げていたのでしょうか? 「星の固有運動」をテーマにお話しします。



北斗七星の固有運動

キッズプラネタリウム

幼児や小学校低学年を対象とした子どもむけプラネタリウムです。毎週土曜・日曜・祝日と学校長期休業中(3/25~4/6)の第2回目と第4回目の投影に実施します。

オリオンとゆかいななかまたち

1月11日(土)~2月24日(月・振)

冬の空には、明るい星がリボンの形で並ぶオリオン座が輝きます。オリオン座と、近くに輝く、いぬ・うさぎ・いっかくじゅうなど、楽しい動物の星座をご紹介します。



* 1月11日(土)~13日(月・祝)の11時10分~は「軌道星隊シゴセンジャー(事前申込制)」のキッズプラネタリウムになります。

ひしゃくぼしとはるのほし

3月1日(土)~4月13日(日)

星がひしゃくのかたちに並んだり、ひしゃくぼしのおはなしや春の星座をお話しします。



* 3月20日(木・祝)・22日(土)・23日(日)の11時10分~は「軌道星隊シゴセンジャー(事前申込制)」のキッズプラネタリウムになります。

こども天文教室

下記の日程の9:50~のプラネタリウム投影はこども天文教室です。最近の天文の話題やいろいろなテーマについて、天文科学館の学芸員が、小学4年生以上を対象に、わかりやすく解説します。天文について深く楽しく勉強しましょう。

- ・1月25日(土) 「火星の観察」
- ・2月22日(土) 「星雲星団の観察」
- ・3月15日(土) 「二重星の観察」

ベビープラネタリウム

乳幼児(0~4歳くらいまで)のお子さんと保護者の方が対象のプラネタリウムです。親子で一緒にプラネタリウムをお楽しみください。

事前申込
 ● 日程：1月24日(金)
 ・2月1日(土)・14日(金)
 ・3月1日(土)・14日(金)
 ● 参加費：入館料のみ
 10時~ 投影時間約30分
 詳しくは当館ホームページをご覧ください。



星と音楽のプラネタリウム

素敵な生の音楽と星空をお楽しみいただくプラネタリウム特別投影です。



● 日程：
 ・1月18日(土)13時10分~
 ・3月8日(土)13時10分~
 詳しくは当館ホームページをご覧ください。

特別展

2025年全国カレンダー展

12月7日(土)~1月26日(日)
 全国の企業や公共施設、動物園などが発行する新年カレンダーを展示します。



2024年全国カレンダー展

KAGAYA作品展

2月1日(土)~4月6日(日)
 星空アーティストKAGAYAさんの撮影された美しい写真を展示します。



©KAGAYA

その他のイベント

お正月開館についてのお知らせ

天文科学館はお正月から開館します!

- 開催期間：1月1日(水)~1月4日(土)
- 開催時間：11時~15時(最終入館は14時30分)
- 入館料：500円(高校生以下無料)

* 1月1日(水)~1月4日(土)は、駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

● 福袋、宇宙食などの販売あり

新春プラネタリウム

その日の空は、どんな星空が見えるのでしょうか。冬の星や星座をご紹介します。

・投影開始時刻

- ①11時30分~
- ②12時50分~(キッズプラネタリウム)
- ③14時10分~(投影時間約40分)

当日整理券制



軌道星隊シゴセンジャー

キッズプラネタリウムにシゴセンジャーとブラック星博士が登場!

事前申込

- 冬場所
1月11日(土)~1月13日(月・祝) 11:10~
- 春場所
3月20日(木・祝)・22日(土)・23日(日) 11:10~

詳しくは当館ホームページをご確認ください。



Event Calendar

1月	2月	3月
<p>1月11日(土)~1月31日(金) 「2025年の天文現象」</p>	<p>2月1日(土)~2月28日(金) 「オーロラ ~天空を舞う神秘的な光~」</p>	<p>3月1日(土)~3月30日(日) 「明石原人が見た星空」</p>
<p>1月11日(土)~2月24日(月・振) 「オリオンとゆかいななかまたち」</p>		<p>3月1日(土)~4月13日(日) 「ひしゃくぼしとはるのほし」</p>
<p>~1月26日(日) 「2025年全国カレンダー展」</p>	<p>2月1日(土)~4月6日(日) 「KAGAYA作品展」</p>	
<p>1月18日(土) 13時10分~【事前申込】</p>	<p>1月25日(土) 2月14日(金) 【事前申込】 「火星の観察」 「星雲星団の観察」</p>	<p>3月15日(土) 【事前申込】 「二重星の観察」</p>
<p>1月11日(土)~1月13日(月・祝) 「軌道星隊シゴセンジャー冬場所」【事前申込】</p>	<p>2月11日(火・祝) 「ウインターナイトミュージアム」【事前申込】</p>	<p>3月15日(土) 【事前申込】 「シゴセンジャーファンクラブイベント」</p>
	<p>2月1日(土) 【事前申込】 「夕焼けパンダ」</p>	<p>3月1日(土) 【事前申込】 「シゴセンジャー春場所」【事前申込】</p>

休館日のお知らせ

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	2 3 4 5 6 7 8
12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	9 10 11 12 13 14 15
19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	16 17 18 19 20 21 22
26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28	23 24 25 26 27 28 29

※1月5日(日)~10日(金)まで休館いたします。

天体観望会の実施日・申し込みについて

- ◆実施日時・申込方法の詳細についてはホームページをご覧ください
- ◆参加費 1人 300円
- ◆駐車場ご利用の場合は別途200円必要です



Information ご利用案内

プラネタリウム投影開始時刻

	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	第5回目
平日	9:50 <small>団体予約がある時のみ</small>	11:10	13:10	14:30	15:50
土・日・祝 及び 学校長期休業中	9:50	11:10 <small>キッズ プラネタリウム</small>	13:10	14:30 <small>キッズ プラネタリウム</small>	15:50

休館日

毎週月曜日・第2火曜日 ただし、月曜日・第2火曜日が国民の休日となる日は開館し、翌日が休館となります。*臨時開館・休館あり
年末(2024年12月27日(金)~31(火))・年始(2025年1月5日(日)~1月10日(金))

年始の営業日時

1月1日(水)~1月4日(土)午前11時~午後3時(最終入館は午後2時30分まで)
*1月1日(水)~1月4日(土)は、駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

開館時間

午前9時30分より午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

観覧料

	大人(高校生以下無料)
一般	700円
団体(30人以上100人未満)	630円
団体(100人以上)	560円
年間パスポート	2,000円

*年間パスポートは購入時から1年間、何度でもご利用いただけます。
*高齢者割引、障害者割引を行っています。
*明石市が発行する「シニアいきいきパスポート」提示で観覧料350円(65歳以上)が無料になります。
*コンサートやイベント等には別途料金が必要な場合があります。

駐車場

普通自動車・マイクロバス(約90台):2時間まで200円(以降1時間ごとに100円) / 大型バス(8台):1回1,500円

施設概要

日本標準時の基準となる東経135度子午線の通過地に建てられた「時と宇宙の博物館」です。プラネタリウムは現役では日本最古、稼働期間も日本一です。

交通のご案内



- JR明石駅下車 東へ1km(徒歩約15分)
- 山陽電車人丸前駅下車 北へ約0.2km(徒歩約3分)
- 車では国道2号線人丸前交差点から北へ約0.2km
- 第二神明道路 大蔵谷I.C.から南西へ約3km
- 明石海峡大橋からは垂水出口を左折し、約6kmで国道2号線へ。国道2号線を西へ約4km(約20分)

明石市立天文科学館

<https://www.am12.jp/>
X(旧ツイッター)@jstm135e
〒673-0877 兵庫県明石市人丸町2-6
TEL.078-919-5000/FAX.078-919-6000
e-mail: otoiwase-tenmon@city.akashi.lg.jp



時間、それは宇宙からの贈りもの

上空2万kmの彼方のGPS衛星で刻まれる10万年に1秒の高精度。
宇宙とつながり、時を知る。衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」シリーズ。

SEIKO

